

週報

こひつじ

第39巻 23号  
大津キリスト教会  
菊池郡大津町室 119  
TEL 096-293-4470  
FAX 096-293-4961  
牧師 米村 英二

今も働くわれらの父

人はおのれの仕事に出て行き、夕暮れまでその働きにつきます。

(詩篇 一〇四の二三)

その三 人も働く

それなら人はどうか。

神が天からご覧になるとき、人は日々何をしているだろうか。

聖書は言う。

「人はおのれの仕事に出て行き、夕暮れまでその働きにつきます」

(詩篇 一〇四の二三)

これが人の姿だ。

サンフランシスコの高層ビルの

ホテルの窓から、夜明けに外を見たことがある。するともう無数の車が動き始めている。いったい彼らはどこへゆくのだろうか。私は不思議な気持ちで眺めた。何の目的

もなく車を走らせているはずがない。なすべきことがあって、人は

早朝からどこかに向かっているに違いないのである。

人とは何か。

上から見ると、そこにあるのは無数の人たちの働く様だ。人間にとっても働くことは神の定めなのだと思ふ。

だから内村鑑三は言った。

「すべて幸福なる人とは、死ぬまで働いた人でありませぬ。日が出て

も労働の希望がなく、日が入って

も労働の収得なく、ただ目的なし

に日を送るくらい、そんなつらいことはありません」

神は働いておられる。人もまた働くことによって初めて自分の存在の意味を知るのではないだろうか。

では、人はどのように働くべきか。

イエスにならうことである。イエスは言われた。

「子は、父がしておられることを見て行なう以外には、自分からは何事も行なうことができません」

私たちも同じだ。自分からは何事も行なうことができない。だからイエスのなされたように父を見

ると父が、毎日、なすべきことを送ってください。それをやる。それだけでよい。いや、それこそは、私たちのほんとうの仕事なのだと思ふ。

心理学者の諸富祥彦さんは大学時代に、これから何をし、どこへ進んだらよいかわからず、悩み、苦しんだ。そんなときフランクルの次の言葉にふれ、目が開かれたという。

「人生は、あなたに、毎日、なすべき課題を与え続けている。その課題にどうこたえてゆくか。それがあなたの人生の意味なのだ。人生に起こってくる出来事で意味のないものなどひとつもない」

彼は思った。

ああ、そうなのだ。もう何をしようか。どこへ進もうかと考える必要はない。なすべきことは私を越えた向こうから日々自分の足下に送り届けられている。だから、それをやればよい。

もし悲しみが送られてきたら、その悲しみを、どう受け止めるか。そこに意味をつくりだす可能性がすでにあるではないか。

そう考えたとき、彼は解放されたのだという。

イエスも自分からは何事も行なうことはできないと言われた。

そこでただ父をご覧になった。するとなすべきこと、言うべきことは父から与えられたのである。

イエスでさえそうであったのなら、私たちは、なおのこと、自分の力、自分の発想で人生を生きる

ことなどできない。ただ、日々、

神がお与えになることをやればよいのである。

それは遠くにはなく、近くに  
ある。明日ではなく、今日、目の  
前に、もうすでに与えられている。  
まず時間がきたら起きる。起き  
たら、ベッドメーカーキングをする。  
朝食をとる。皿洗いをする。部屋  
を片づける。目の前の今日の仕事  
を始める。なすべきことは常にあ  
る。まずそこから始めるのである。

それらの小さな働きの積み重ね  
が、やがて形となり、私たちの人  
生を作り上げてゆくのではないだ  
ろうか。

今日の礼拝

第一礼拝は午前10時から、  
第二礼拝は午前11時から。  
教会学校は午前10時からこ  
ひつじ館で。

説教は米村牧師。

先週の礼拝

司会は岩崎宏志さん。  
奏楽は吉岡隆夫さん。

説教は西岡潤也さん。  
創世記一六の一三から「エル・

ロイ」「顧みたもう神」について。  
西岡潤也さんは、高校時代にお  
父さんが突然倒れるという経験を  
し、自分も家族も途方にくれたこ  
とがあつたが、振り返ってみると、  
神の恵みは十分だつた。今、自分  
も「エル・ロイ」と神に感謝する  
ことができるかと語ってくださいま  
した。

証及び自己紹介は長岡舞子さ  
ん。

精神科医として働く舞子さんは、  
何をやっても空しいと訴える若者  
が『伝道者の書』の朗読によつて、  
いやされていった過程を語ってく  
ださいましたが、実に感動的であ  
りました。確かに『伝道者の書』の著者  
ソロモン自身が「心の空しさ」に  
襲われ、そこから救われた人だつ  
たのです。舞子さんの話は、まさ  
に『伝道者の書』の生きた注解と  
もいふべきものでした。

先週の出席

第一礼拝が四七名、第二が四  
人もいます。大変お世話になつた

三名、合計九〇名（男三三、女五  
七）。子ども八名。合わせて九八名。

徳永重則・公子夫妻の長女め  
ぐみさん、次女のぞみさんがそれ  
ぞれ大阪と台湾から帰省され、礼  
拝に集ってくださいました。

消息

高齡の方がたのために祈  
りください。甲木銀子さん、松村  
二美代さん、伊藤厚子さん、星子  
弥生さん。

牧師身辺

小堀徳廣・蘭子夫妻の孫のや  
まと君（シアトル在住）が訪問中  
で、約二ヶ月日本に滞在されます。  
北海道のCFNJ聖書学院の学  
院長鍛冶川さんの妻で副学院長で  
もある紀子さんが、最近の検査の  
結果、大腸に癌のあることがわか  
つたそう、近く手術をされます。

早期の発見とは思われますが、お  
祈りください。

ぼくたちの教会にも卒業生が何  
人もいます。大変お世話になつた

方です。事実、卒業生の西岡潤也  
さんや興梠みゆきさんは、先日、  
それぞれ生まれて間もない赤ちゃん  
を連れて、吉岡家の皆さんとと  
もに学院を訪ね、お会いしたばか  
りでした。

妻も数年前に大腸癌の手術をし  
ました。手術後、何をどう食べる  
かで、スूप器（スूपの力）が  
とても役立ちましたので、お見舞  
いにそれをお送りしましたら、さ  
つそく作ってくださいましたよう、  
とてもおいしかったと、メールの  
返事がありました。

幸子さんは、六月二日から約  
一〇日ばかり上京予定です。幸子  
さんの姉の光子さんが九八歳で亡  
くなつて二年になります。コロナ  
禍で葬儀にも出られなかったので、

家族への挨拶のためです。また八  
八歳になるすぐ上の洋子姉（千葉  
在住）も訪ねる予定です。東京で  
は長男の耕一家族のところに滞在  
します。

牧師のメールアドレス。

yonemura@ja2.so-net.ne.jp